

論述ブースト No.14

ゲノム医療・遺伝子検査を論じる ― 可能性・プライバシー・差別リスクを3軸で整理する

導入文

「ゲノム医療は素晴らしい」という賛辞で終わる答えは、医学部では評価されない。発症前診断・個別化医療の可能性と同時に、遺伝情報のプライバシー・保険差別・家族への影響という固有の倫理的課題がある。3軸を持つことで、医師志望者としての深みある論証が書ける。

講義概要

ゲノム医療・遺伝子検査を「医療の可能性」「プライバシーと情報管理」「遺伝的差別リスク」の3軸で体系化する。発症前診断の意義と心理的負担、遺伝情報の第三者提供の問題、遺伝カウンセリングの役割、ゲノム研究の社会的課題を整理し、医学部小論文・面接で論証できる力を育てる。

授業目標：ゲノム医療論述を賛辞から、可能性・プライバシー・差別の3軸による論証へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・生命科学系の総合型選抜・推薦入試で、ゲノム医療テーマの小論文・面接に備えたい生徒。

授業時間：授業90分+演習・質疑応答30分

到達目標：発症前診断の意義と倫理的課題を論じられる／遺伝情報のプライバシー問題を組み込める／遺伝的差別リスクを具体的に論点化できる

授業構成 (90分) + 演習・質疑応答 (30分)

授業90分：1 導入：賛辞で終わる答えと3軸の論証を比較 2 可能性軸：個別化医療・発症前診断・創薬への応用 3 プライバシー軸：遺伝情報の特殊性・家族への影響・第三者提供の問題 4 差別リスク軸：保険・雇用における遺伝的差別の懸念 5 遺伝カウンセリング：情報と感情の両面を支える役割 6 演習：「発症前診断を受けるべきか」を3軸で論じる 7 まとめ：「可能性と課題を対で論じる」構造を固定

追加30分：「ゲノム情報を保険会社に提供することの問題」を3軸で300字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：ゲノム医療の可能性の整理／遺伝情報の特殊性と課題／差別リスクの具体例／遺伝カウンセリングの役割

課題：「遺伝子検査で将来の疾患リスクを知ることの意義と問題点」を可能性・プライバシー・差別の3軸で300字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡し的な基礎確認をしたい方にも対応。